

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
吉岡 秀輝			
授業のねらい（概要）	航空ロジスティクスの観点から国際輸送を展望する。発展を続ける航空貨物産業の実態を理解するため、マイケル・セールスの著書、Sales, Michael (2016). Aviation Logistics: The Dynamic Partnership of Air Freight and Supply Chainをテキストにして授業を進めていく。旅客とは異なる航空貨物特有の問題および領域、例えば、グランドハンドリング・エージェントに関する理解も深めていきたい。		
授業計画	<p>航空ロジスティクスの研究</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論 <ul style="list-style-type: none"> <li>航空ロジスティクスの概念規定</li> </ul> </li> <li>2. 航空ロジスティクスのさらなる奮闘に向けた取り組み</li> <li>3. 航空ロジスティクスの沿革—航空貨物史 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 規制と協定</li> <li>(2) ベルリン大空輸</li> <li>(3) 航空貨物の成長</li> </ul> </li> <li>4. 接続空港の問題</li> <li>5. 貨物ハンドリング・エージェント—ITのインパクト</li> </ol> <p>予習（時間）：毎時間、各自の課題範囲を十分に予習しておくこと。（各回120分）  復習（時間）：授業で指摘された点については周到に文献サーベイしておくこと。（各回120分）</p>		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学の専門的知識を持ち、組織全体を見渡す能力</li> <li>2. 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①航空ロジスティクスの重要性を理解できる。</li> <li>②航空ロジスティクスの沿革を理解できる。</li> <li>③貨物輸送におけるグランドハンドリング・エージェントの役割を理解でき、航空ロジスティクスの将来性を展望する能力を備えるようにする。</li> </ol>		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	毎回の授業で課題を割り当て、発表してもらい、その内容を評価する。		
履修上の注意	授業の内容は、上記テキストの原書講読が主になる。各受講者に毎週、翻訳発表の個所を示すのでしっかりと十分に時間を取って予習してきてほしい。		
成績評価の方法・基準	定期試験は行わない。代わって単位レポートを課す。レポート80%、学修意欲20%の割合で総合評価する。		
教科書	なし		
参考書・教材	【参考書】適宜指示する【教材】プリントを配布する		
備考	講義科目		
教員との連絡方法	メール、オフィスアワー		